

はじめに～多様な生物が生息する都立公園づくりについて～

東京都では、生物多様性のポテンシャルが高くエコロジカルネットワークの中核・拠点となる31公園を選定し、多様な生物が生息する都立公園づくり事業を実施しています。
令和7年度にかけて、武蔵野公園の一部で多様な生物の生息空間となる環境を整備します。

各公園（西部公園緑地事務所管内）の事業実施状況

計画策定中 又は予定	⑮滝山公園 ⑯井の頭恩賜公園 ⑰浅間山公園 ⑱小金井公園 ⑳野山北・六道山公園 ㉑桜ヶ丘公園
工事予定	⑲小宮公園 ㉒武蔵野公園 ㉓野川公園
工事済	⑮長沼公園 ⑯平山城址公園 ⑰小山田緑地 ⑱小山内裏公園 ㉒狭山公園 ㉓東村山中央公園 ㉔八国山緑地 ㉕東大和公園

武蔵野公園の自然について

本園は多摩川支流の一級河川である野川が園内を流れる台地の公園です。
野川の左岸では、子どもたちが虫取りや水辺の生き物観察を楽しむ姿が見られ、右岸の原っぱからはハケと呼ばれる国分寺崖線と野川が一体となった景観を見ることができます。崖線の林床には武蔵野を代表する野草が見られます。



武蔵野公園の課題について

令和3～4年に動植物の①生息環境調査、②公園管理者・市民団体・有識者との意見交換を実施し、主に下記の課題が確認されました。

植物	・隣接する野川公園と比較して湧水環境が少なく、水辺を好む植生が乏しい ・ナラ枯れの被害が顕著であり、共生関係にあるキンランの生育のため、コナラ林の更新が必要
両生類	・確認された種数が野川公園よりも少なく、水辺環境の整備が必要 ・移動経路がはけの道で分断されているため、移動経路の改善が必要
鳥類	・枯損等により樹木が減少したことで、確認される種数が減ってきている ・小鳥の繁殖場所として、カラス等の天敵から隠れることができる低木や高茎草地が必要
昆虫類	・より豊かな昆虫相を実現するには、多様なエコスタックの設置が必要 ・外来種であるアオマツムシを抑制し、在来種のカンタンを保全するには高茎草地の拡大が必要

生物多様性保全整備の概要

本園の課題を踏まえて、下記の目標を設定しました。
これらの目標に従い、常緑樹の植栽、水辺（池）と高茎草地、エコスタックなどを整備します。

テーマ

人々が育て、守ってきた公園と野川が一体となった多様な自然の貴重さを感じ、継承する環境の創出

保全目標

暗い樹林や明るい樹林、林縁、圃場、サクラ、草地、竹林等、多様な環境とそこに生息する動植物を保全する。
野川や周辺公園との連続性を確保し、多様な生物の生息環境となる複合環境とする。

活用目標

人々が親しみ、ふれあうための資源とする。



高茎草地とは

高さが2～3メートルの草が生育する草原を指し、バッタや鳥類などの生息地となります。



エコスタックとは

剪定枝などで作った枠に落ち葉などを積み重ねたもので、トカゲやクワガタムシなどの住み処やテントウムシなどの越冬場所となります。



高茎草地の整備イメージ～BMX跡地～

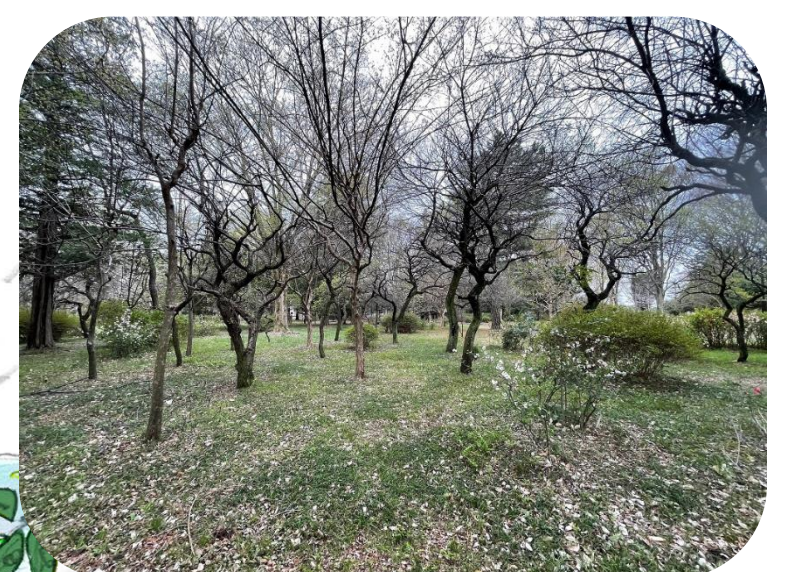
はらっぱ付近のBMX跡地は、整地してチガヤを植栽し、かつてあったチガヤが広がる風景をつくります。チガヤなど高茎のイネ科植物は、大型のバッタ類や鳥類、小型の哺乳類の隠れ家となります。また、これらの実は、冬に小鳥たちの貴重な餌になり、生物多様性を向上させます。



現在のBMX跡地

水辺の整備イメージ～苗圃・崖線～

公園北側の崖線と南側の苗圃に、地下水位が高い特徴を活かし、井戸水を水源とした水辺を整備します。水辺を生育や産卵の場所とするトンボ類や両生類等が見られるようになり、これらを餌とする鳥類が増えることで、生物多様性に寄与します。



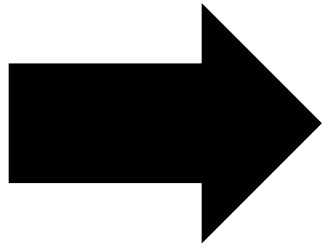
現在の苗圃

樹林地の管理イメージ～崖線～

東京では、林を放っておくと、常緑樹の林に変わっていき、暗い環境を好む生き物だけが生息する空間になります。コナラが主の崖線では、適度な間伐を行い、明るい雑木林を維持します。



暗くなった雑木林



明るい雑木林

事業スケジュール

生物多様性の保全整備工事を実施した後、自然環境の変化や生態系の状況を長期的に観察し、記録するモニタリング調査を実施します。
モニタリング調査の期間中は、調査結果に基づき、自然環境の変動に合わせて林床の草刈や外来種の除去等を行う順応的管理を行います。
さらに、生物多様性の重要性をより多くの人に知っていただくため、自然観察会等の普及啓発の推進にも取り組みます。

令和7年				令和8年	
1月	4月	7月	10月	1月	4月～
保全整備工事				モニタリング調査・順応的管理・普及啓発	



植物モニタリング



選択的除草



ガイドウォーク